

民主化闘争情報

No. 907
2014年7月8日
発行 日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

トラブルが多発するJR北海道で、コンプライアンスや企業の組織運営等の企業改革に向けて、6月12日、第三者委員会である「JR北海道再生推進会議」が設置された。

そのような中、6月18日、コンプライアンスや企業の組織運営の根幹を成すはずの人事において、不可解な登用が実施されるなど、「最大労組が人事介入、労使癒着」とマスコミは批判的に報じている。

JR北海道で不可解人事！？「最大労組が人事介入、労使癒着」と指摘 警察も強要や脅迫で慎重に捜査

人事は会社の専権事項であるが、JR北海道においては、最大労組が人事に介入、労使癒着の現状が明らかとなった。報道では、約2年前、苗穂運転所での運転指導員登用を巡る人事介入が指摘されているが、石勝線脱線火災事故以降、安全の確立と信頼回復にむけて全力を傾注するべき時期にこのような不可解な人事が断行されたことになる。

さらに警察も、強要や脅迫がなかったのか慎重に調べているという。

HBC北海道放送 (社員①)	要旨 (JR北海道労組の)幹部から電話がかかってきた。もしかしたら(運転指導員登用の)声がかかるかもしれない。その時は、組合としては誰々でいきたいから断ってくれと。 上司に頼まれたので(運転指導員を)やります、と言ったら、次の日に出勤すると組合役員が何人も待っている。
(ナレーション)	本気でそのポジションを受けるなら、(苗穂分会の)委員長が“俺の指を詰めてから行け”と…… 最大労組(JR北海道労組)には、別の人物を指導員に推薦したいとの意向があったという。執拗な嫌がらせは乗務直前まで続き、1週間にわたり繰り返されたと言証する。
(社員①)	穏やかな気持ちで仕事に行きたいのに、仕事の前に何人にも囲まれることが続いた。
(ナレーション)	結局、指導員に登用されたのは最大労組の執行委員を務める別の運転士だった。
(苗穂運転所運転科長)	向こう(組合)からの(人事の)意向を言うてくることは、岩見沢運転所でもあったが、ここ(苗穂運転所)が一番絡みすぎてくる。 指導操縦者(の人事)について、組合がやってきた。『Aを降ろしてほしい』と言ってきた。(人事を担う)俺に対して、Aなんかに教えてもらいたくないのうわさが組合の中で広がっているという。 誰かやめさせたい人、やらせたい人はいるか、と聞いた。 新幹線の人事は間違いなく組合が絡んでいると思う。組合が黙っているとは思えない。
(社員②)	第一組合(JR北海道労組)の組合員がほぼすべて管理職に座っている。自分も組合員なので、(組合と)うまくやろうというのは当然で、どうしても組合寄りになってしまう。
(アナウンサー)	苗穂運転所であった人事介入、警察も関心を持っている。関係者から事情を聞いて、強要や脅迫がなかったのか慎重に調べている。

JR北海道島田社長「人事権、管理権を正していくことは必要。

会社の再生のために明確に実施していきたい」

事業改善命令・監督命令を受け、第三者による外部からの視点に基づき、再生に向けて企業風土にまで踏み込んだ改革を目指し、「JR北海道再生推進会議」を設置した矢先、最大労組の人事介入が明らかとなった。JR北海道島田社長は、記者会見の席上、組合の人事介入について質問が及ぶと「きちんとした人事権、管理権を正していくことは必要である。会社再生のために明確に実施していきたい」と述べている。第三者委員会「JR北海道再生推進会議」委員の吉見宏氏も「組合の論理が会社の論理に優先すると、会社の機能が果たせなくなる弊害がある。それが安全面に反映されるとマイナスの影響を与える可能性は否定できない」などと指摘している。

JR北労組が提起したJR北海道再生プランでは、安全確立や風土改革の取り組みを検証する第三者機関の設立を求めていた。第三者機関には安全確立、不可解な人事の是正をはじめとした企業改革の役割を果たしていくことを期待したい。